

記録の主旨

今後本部主催総合防災訓練を企画・実行するときの参考に供するために、2014年度の実施記録を残す。訓練当日のどのくらい前に何を行う必要があるかの判断に役するため、時間軸に沿った記録とする。文中個人名(あるいは役割名)は後の質問の便宜のために記した。

実施記録

注：“事例マニュアル”は事実をそのまま記して参考に供するもので、定まった標準を示すものではありません。

実行委員会立ち上げ以前

10月25日(土)10:00 から起震車体験を含む総合防災訓練を行うことが、2014. 04. 27の責任者全体会議にて決定され、起震車の予約(申請先:町田市防災安全課)がなされていた。

5月26日(日)第1回隊長支隊長会議に、本部事務局防災訓練担当(以下事務局)より「本部主催総合防災訓練のねらい・進め方」(以下の論議と大きく違わないので、ここには掲載略)を示して論議。

論議以下の通り。これらの考えで、具体案は実行委員会で作成して隊長支隊長会議に報告の上実施することが承認された。また「前回時間が長かった(特に高齢者には)ので短縮に配慮してほしい」との指摘あり。

- ・小川自治会自主防災隊の活動の目玉として、また主要な実技トレーニングの場の一つとして、あるいは支隊ごと、専門班ごとに他で行っているトレーニングの成果を披露する場として、毎年度継続的に実施してゆく。
- ・消防署、市役所の訓練に加え、防災隊独自の出しものを用意する。
- ・訓練内容も避難誘導訓練など実践的な内容に近づけてゆく。
- ・実行委員会を作り、内容の検討、各種準備、広報活動、当日運営などを行う。
- ・実行委員会は本部事務局・防災訓練担当+各支隊から1名+専門班会議からで構成。
- ・参加者の投票などで「グッドパフォーマンス賞」を出すことも検討
ただし今回は1回目でパフォーマンスの高さは要求せず、こんなこともできるようになりましたという披露の場なので、賞を出すことには配慮が必要。
- ・各支隊は実行委員と出しもののアイデアを6月25日までに事務局防災訓練担当に連絡。

6月29日(日)第2回隊長支隊長会議

事務局より実施時間の見積もりを含めた**実施項目仮案***を提示して論議、以下が決まった。

また「午前中で参加者に女性も多いため延びると中途帰宅者が出る。12時終了厳守」と、ここでも時間厳守が指摘された。

実施項目(出しもの)に関する意見は「8月10日(日)第3回隊長支隊長会議」の項にまとめて記す。

- ・予備日の決定:10月25日に実施できなかった場合、10月26日(日)午後に起震車を除いて(起震車は25日に実施できなかった後改めて申し込むことを要すが、その時点ではもう空気が無くなっていると想定)実施する。
・・・計画の当初から予備日についても決めておく方がよい。
- ・実行委員会を早急に発足させ、内容・体制・準備工程などを煮詰め次回会議に提案
- ・支隊などからもアイデア・意見を実行委員会に提案すること。
* 未だ実行委員会未実施につき、事務局からの仮案で論議した。事務局より、6月25日までにとっていた実行委員の遅滞ない選任を求めた。

7月7日(月)第1回実行委員会 (19:00~21:00)

ようやく(7月5日に)すべての実行委員が決まり、初回の実行委員会を開いた。

実行委員以下の通り

せんげん支隊天野・本木、しもおがわ支隊宍戸、かえで支隊吉田、蜂谷戸支隊坂本、柳谷戸支隊横田、本部事務局から林および防災訓練担当2名中泉、宇津木。宇津木が進行役を務めることに決まった。

1. プログラム(出しものと時間割)案討議

進行役が提示したプログラム案に基づいて討議……プログラムの検討については「8月10日(日)第3回隊長支隊長会議」の項にまとめて記す。

2. 総合防災訓練実施日時変更案現出

実行委員の中から「蜂谷戸会場の全支隊集合の訓練を午前中にやる原案だとその前の各支隊の訓練開始時刻があまりに早すぎる、なぜ午後にしなかったのか」との指摘が出た。また午前中だと全支隊集合の訓練の時間も短く、運営にタイムプレッシャーがあった。午前中にやるとの原案は、起震車の予約を急ぐため訓練内容全体の検討/所要時間の検討がなされない段階で決められ、午前になっていた。

7月12日(土) 隊長支隊長の集まり(第2回非常時体制検討チーム)で総合防災訓練実施日時変更実質決定

そこでこの時点で未だ起震車の予約が可能で10月18日(土)午後に変更する案を立て、この日の隊長支隊長の集まりの場を利用して実行委員会として提案した。

午後の方の優位性は、添付資料1.「2014年度防災訓練当日実施要領 午前の場合のタイムテーブルと問題点」と同 午後の場合のタイムテーブル」の比較を示して説明した。

提案は了承されたが、「災害はいつ発生するか分からないのだから、訓練は朝早くからやるのも悪くない。一度決定してすでに支隊内にも案内したものを変えない方がよい」との意見もあった。

7月14日(金) 上記10月18日(土)午後への変更にもない、町田市役所防災安全課に「防災訓練(起震車使用)等申請書」および「防災訓練実施計画書」の再提出*

今回電話で行った。通常前者は担当者名で申請し捺印不要、後者は代表支氏名住所を記し捺印する必要がある。用紙は町田市役所防災安全課ホームページから取るか、または窓口で。ホームページには電話申し込みも可のごとく書かれている。申し込みは実施日の6か月前から14日前までに。申請に先立つ起震車の予約の空きの確認は、ホームページ上で空きになっていても実際は埋まってしまっていることもあるので、電話で担当者に確認を取る方がよい。

後記のものも含めて、*は進行役を含む事務局(実行委員)2名があたった。

7月14日(金) 同上変更にもない、町田消防署本署に起震車訓練日変更要請*

起震車の出動は市の管理だが一緒に使う家具装置は町田消防署本署の保管になるので、電話で要請した。

7月15日(火) 第2回実行委員会(19:00~21:00)

1. 総合防災訓練実施日時変更決

前述7月12日(土)の結果を持ち帰り、訓練日時の10月18日(土)午後への変更を決定した。

予備日は10月26日(日)午後のままとした。

2. プログラムの検討

本命10月25日実行(起震車あり)のばあいと、予備日26日になる(起震車無し)ばあいのプログラムおよび参加者に持ち帰ってもらう“みやげ”など、また支隊や専門班に実施を請け負ってもらう必要のあるものなどを、時間割も考慮しながら討議した。

……内容は「8月10日(日)第3回隊長支隊長会議」の項にまとめる。

7月20日ころ 上記10月18日(土)午後への変更にともない、町田消防署(南出張所)への「防災訓練等通知書」(申請)再提出*

町田消防署南出張所に出向いて、用紙を受け取り、その場で記載して提出。印鑑不要

7月20日ころ 同上変更にともない町田市公園緑地課に公園使用許可書(申請)再提出*

市庁舎公園緑地課に出向いて、用紙を受け取り、その場で記載して提出。申請者捺印必要

ここまでの*は後述10月18日(土)午後への再度の変更時にも行っているが記載省略。

なお今回の訓練は、蜂谷戸公園のそばに消火栓が無く、スタンダードパイプ訓練は消防署持参の模擬消火栓を使うため、警察署への道路使用許可申請は不要と判断された。

7月下旬 町田消防署本署と防災訓練、特に起震車体験について打ち合わせ*

起震車は人が入って揺れの体験をするのみでなく、今回あたらしく、家具の転倒および防振対策の効果を見ることのできるプログラムを要請し、了承された。(起震車体験の申し込みは複雑で、まずその使用の申し込みを起震車を所有する町田市(防災安全課)に行ない、起震車を出勤させて体験させてもらうことの申し込みは訓練全体の申し込みを含めて町田消防署に行なう。小川地区では、実際の出勤が南出張所になるのでそこに行なう。そして「家具」も必要な場合は、それを保有する本署とも直接打ち合わせておくのが安全。

7月下旬 町田消防署南出張所と防災訓練について打ち合わせ*

後記8月10日の項に記す出しもの案に対して、消防署側は消化不良になる恐れから出しものの削減をアドバイスしてきたが、当方は、時間を区切って、その中で可能な人数が体験できればよい考えで当方できちんと時間管理を行うとして、了解を得た。

なお蜂谷戸公園のまわりには消火栓が無いが、スタンドパイプ訓練は、「水はポンプ車から出し、消防署が持つてゆく模擬消火栓を使うことによって、実際に放水する訓練が可能」と確認した。

町田消防署(南出張所および本署)との打ち合わせは、この後にも、9月下旬までに数回繰り返して行った。*

- ・消火器訓練は実際にものを燃やして行えないかの確認、スタンドパイプ訓練は実際に放水できるかの再確認
- ・防災隊独自に展示コーナーを行うこと、起震車の家具転倒/対策効果デモ全員見学が入ることから来る進行上の懸念点の整合、訓練会場レイアウト可否確認など

7月31日(木) 町田消防署南出張所より連絡—総合防災訓練実施日再度の変更必要になる。

消防署より連絡「10月18日は東京消防庁全体の防災訓練が入ったため、対応できなくなった」

やむなくこの時点で起震車の予約が可能であった10月4日(土)午後への変更案を立てた。

近々隊長支隊長の集まりの場、実行委員会の予定が無いのでメールで連絡し、この日**10月4日(土)午後**に**実質決定**した。なおこの時点で、9月では準備が間に合わない、11月以降では日が短くなり過ぎるとの条件もあり、午後で起震車が使えるのはこの日に限られていた。

前回の変更時も今回も、近隣の小学校中学校(小川小学校・南成瀬中学校)に大きな行事が無いことを確認して案を立てた(進行役)。だが保育園幼稚園のチェックを見落とし、結果的にもりのおがわ保育園の運動会と重なっていた。(今回はこの日時しか起震車が使えなかったが。)

なお予備日は10月26日(日)午後のままとした。

8月10日(日)第3回隊長支隊長会議

5月26日(日)と6月29日(日)の2回の隊長支隊長会議、および7月07日(月)と15日(火)の2回の実行委員会で検討・討議を経て、実行委員会として出しものおよび全体計画を報告、以下了承された。

◇各支隊

- * 活動隊員は早めに集合分担して旗出し調査
- * 一般隊員は所属支隊公園に13時集合 人数確認
- * 避難誘導責任者の先導で蜂谷戸公園へ避難(移動)
(蜂谷戸支隊の避難にはリヤカー、下小川・かえで支隊の避難には車いすによる負傷者搬送を含める)
(せんげん支隊の避難は、支隊、青パトおよび本部(蜂谷戸公園)のトランシーバーで連絡を取りながら行う。)

◇蜂谷戸防災訓練会場

- * 隊長、本部隊員、実行委員、各コーナー担当者は**13時集合**
- * **13時30分までに 各隊集合 参加人数をまとめる。**(まとめの担当者を置く)
- * **13時30分司会スタート**…副隊長
- #1. 開会宣言……司会
- #2. 隊長挨拶
- #3. 指導員紹介(町田消防署、町田市役所、消防団)……隊長
- #4. 組み分けと実施手順 予定時間の発表……本部事務局防災訓練担当(実行委員)
- #5. 訓練
 - ①13:40~14:00 起震車による家具転倒実験(デモ)…全員集合して見学
 - ②14:00~15:40 グループ分けして実施する訓練
 - グループA:起震車震動体験と展示コーナー
 - グループB:煙体験
 - グループC:消火器放水訓練
 - グループD:スタンドパイプ
 - グループE:AEDと心臓マッサージ
- #6. 15:40 訓練終了
- #7. 講評 町田消防署
- #8. 防災隊連絡
- #9. 16:00 閉会宣言・解散……司会
- #10. 本部隊員・実行委員は後かたづけ

◇各支隊

- * 活動隊員は各支隊へ戻り、旗出し状況の最終確認

出しものについての主なる意見

- 自治会内にAEDがない状態でAEDの訓練に時間をかける必要があるのか?⇔自治会区域外でAED実施機会に遭遇することもあり、有用。消防署としても高い優先度を考えていた。
→ 実施
- 消火器の訓練は実際にものを燃焼させてやれないか?
…一部から強い希望が出、消防署に掛け合ったが、「泡の発生が近所迷惑になる可能性あり、近年ずっとやっていない。(あきらめて欲しい)」→ 水でやることになった。
- 起震車の家具の転倒と対策効果の実演は効果あり、ぜひ実施して欲しい。煙体験もこれまでやっていないので是非。

また以下確認された。

- ①旗出し訓練については一斉実施するが方法は各支隊に一任
- ②5つの訓練グループごとに1人ずつ担当者(時間の空き無く参加を促す、時間が来たら次の訓練への移動を促す)を置く。
- ③展示コーナーに当日の責任者および担当者(見学者対応・展示品管理)を置く。
- ④一般隊員への広報
 - ・8月号自治会だより(日程変更のお知らせ) 8月10日発行済
 - ・9月号自治会だより(訓練の詳細案内) 同HP
 - ・掲示板ポスター 9月中旬
 - ・各支隊広報紙

8月18日(月)第3回実行委員会 (19:00~21:00)

1. 実施内容・当日実施要領確認……………8月10日隊長支隊長会議で了承された実施内容と当日実施要領(8月10日(日)第3回隊長支隊長会議の項の記載と同じ)を確認した。
2. 展示コーナーの構成について確認
 - 進行役より添付資料2. 総合防災訓練「展示コーナー」の構成を提示し、略そのように決定した。(展示現品の詳細リストは後にまとめた添付資料3. 2014年度総合防災訓練必要機材および搬送/設営計画参照)(後にコーナー7の内容が拡大され、小テントと机を一つ追加してそこにコーナー7を設けることになった。)
 - ここまでにしたパネルとパンフレットの一部を確認し、残余のものも同様なトーンで作ることを決めた。(進行役(実行委員)が担当。展示コーナー7のものは実行委員林氏~給食給水専門班が担当)
 - 手配・購入品決定…上で決定した展示物と上記添付資料3. に示すものを合わせ、調達必要な物品を洗い出した。(新たに購入するものはわずかであった。)
3. 蜂谷戸会場レイアウト確認……………現地超粗測量とそこに並べるものの粗寸法の比較をしながら案を立て、消防署とも整合した(進行役(実行委員))添付資料4. のレイアウトを確認した。
4. 当日担当確認…添付資料5. 「蜂谷戸防災訓練会場 当日担当」のごとく確認した。
5. 工程表確認……………第2回実行委員会あたりで訓練当日までにだれがいつ何を行うかを一覧する「工程表」の最初のものが見られ、使いながら順次手を入れて、この時点では工程表を添付資料6. 「2014年度防災訓練準備工程表」のようにまとめ、今後行うべきことを確認した。

8月初旬~9月初

少しずつ進めながら資料化して使ってきたものを最終的に添付資料2. 3. 4. 5. 6. にまとめ(実行委員林氏、進行役)、第3回実行委員会や第4回拡大実行委員会などで活用した。

またパネルやパンフレット、および展示現品のうち感震ブレーカーセットやためしてガッテンに紹介された冷蔵庫固定法デモセットを制作した(進行役(実行委員))。感震ブレーカーセットのための分電盤は、市のリサイクルセンターや工務店などに廃棄するものを回してもらったのをたのんでおいたが、1か月かかって(工務店から)入手できた。

- 感震ブレーカーセットおよび冷蔵庫固定法デモセットは繰り返し利用可能な形にしており、防災隊の備品として残している。
- パネルの一部とパンフレットは後に活動マニュアル化して登録した。(詳しくは添付資料2. 総合防災訓練「展示コーナー」の構成参照)……………活動マニュアル化していないパネルのみ添付資料9. に示す。

9月4日(木) 第4回拡大実行委員会 (19:00~21:00)

実行委員のほか隊長および当日役を持つ人々も招き、諸事項の確認を行った。

第5回目は必要が無くなり、実行委員会はここまでで終了とした。

1. 当日実施要領 ……初参加の人がいるので8月10日隊長支隊長会議提示と同一内容のものをなぞり、また以下を確認した。
 - ・訓練のグループ分けは基本的に各支隊ごととし、人数差が多すぎるとき(1.5倍以上)だけならず。
 - ・混乱なく進行させるため、展示コーナーの見学は起震車体験の時間に限ることにする。
 - ・給食給水専門班が(衛生上小川会館で)炊き出し訓練を行い、 α 米ごはんを当日参加者にもやげとして配ることが追加された。
注:この α 米は、別途防災隊として市の防災安全課に申請し、防災備蓄のなかから配布を受けている。(市としても賞味期限切れにせず有効活用する意味がある。)

2. 展示コーナー…模擬コーナー(パネル掲示、机の上に現品および品名を示すプレート、パンフレット)を作り確認
 - パンフ「簡易電源自動遮断装置(“感震ブレーカー”）」においては、「ブレーカーをもとに戻すときの注意を追記すべき」との指摘があり、従うことにした。
 - (展示コーナーからは離れるが) 蜂谷戸公園に隣接する舟木氏宅の雨水タンクを、当日訓練時間中および終了後に見学させていただくことが追加された。
3. 蜂谷戸会場レイアウト……………添付資料4. で確認
4. 前日準備および当日必要機材・倉庫からの運びだし／会場設営計画……………添付資料5. で確認
5. 蜂谷戸防災訓練会場当日担当・中止の決定と連絡網 ……………添付資料6. で確認
6. 支隊、青パトおよび本部(蜂谷戸公園)のトランシーバーで連絡を取りながら行う負傷者搬送訓練のやり方
トランシーバー交信熟練者(本木氏)よりやり方の概要、当日交信のシナリオ、注意点の説明がなされた。
訓練当日午前中に交信訓練参加者は簡単なリハーサルを行うことになった。
7. 蜂谷戸訓練会場関係当日までの残りの作業……………添付資料7. で確認

9月下旬 消防団打ち合わせ*

消防団には実行委員横田氏のおついで話をしてもらっていると受け止めて来ていたが、改めて市役所防災安全課に聞くと、市役所防災安全課に提出する「防災訓練(起震車使用)等申請書**」で「消防団の派遣消防団の派遣が必要ですか?」にYESとしておくと、防災安全課から消防団に連絡され、消防団より防災訓練を行う団体に連絡があるからそこで話をするのがよいということであった。そこで9月初から防災安全課にたびたび催促を重ね、ようやく小川地域担当の消防団第二分団第六部責任者とその詰所で面談が持て、実施したい内容を説明して了解を得た。(後で**を確認すると、「訓練内容の確認等で、消防団及び起震車ドライバーから連絡がある場合があります」の記載があった。振り返ると、今防災訓練では先方は連絡不要の判断をしていたように思われる。) ここで消防団責任者から「(技術的な理由で)スタンドパイプ訓練で水を出すのはムリではないか」の発言があった。

9月下旬 町田消防署(南出張所)にスタンドパイプ訓練で実際に放水ができるかの再度の確認*

スタンドパイプ訓練で実際に放水ができるかについては7月下旬の最初の打ち合わせで「可」と確認していたが、途中で「不可」と言われ再度「可」を確認していた。前項を受けて今度また電話で質すと「不可」とのこと。膝詰めで分かったことは、先方は出しものの多さから消化不良になることを懸念してホースの着脱までの訓練にしたかどうかと考へての発言であった。結局放水することに落ち着いた。
消防署は輪番制ゆえ面談のたびに人が変わってしまうことがあり、先方もメモを取ってはいるのだが以前の打ち合わせ結果がきちんと伝わらないことがある。要注意。

9月26日(金)町田市役所緑地公園課に出向き公園の車止めの鍵のキー借受け*

前日準備と当日蜂谷戸公園に車が入れるように、公園の車止めの鍵のキーを借受け。
(その場でも出された申請書に記載して、その場で借り受け。正式には「印かん必要」(実際には無しで済ませてもらった)各公園で共通の鍵を使用しているようでキーは複数あり、6日に返すまで預かっていて問題無かった。)

9月末 起震車の家具転倒/対策効果デモ実施不可能に

町田消防署本署より、「デモに使う部材が一つ見つからず、家具のデモは不可能になった」と連絡あり。この部材は町田消防署本署で作ったオリジナルのもので代替品はなく、あきらめざるを得なかった。次回家具のデモを希望するばあいは、この部材が新たに用意できているか確認する必要あり。

10月1日(水) 各支隊代表支隊長に「2014年度総合防災訓練当日実施細部要領」配布*

各支隊代表支隊長に進行役より標記の資料(添付資料7.)を配布(メールあるいは書面配布)し、当日の円滑な進行のための要請を行った。

10月2日(木) 防災訓練当日に役割を持つ人々に「2014年度 総合防災訓練当日実施細部要領2」配布*

防災訓練当日の円滑な進行をめざして作業を確認していただくために、当日役割を持つ人々に進行役より標記の資料(添付資料8.)を配布(メールあるいは書面配布)した。内容は9月4日(木)第4回拡大実行委員会で確認したことの補足および再確認。

10月03日(金)前日準備

前日準備を行った。(内容は添付資料4.「2014年度 防災訓練 必要機材および搬送/設営計画」参照)

10月04日(土)2014年度総合防災訓練

前日、当日と好天の中実施できた。その様子は次項参照。

なお今回は専門班や支隊独自の出しものは(小川会館で並行して行われた給食給水班の炊き出し訓練やα米ご飯のみやげ配布を除いて)無く、「グッドパフォーマンス賞」を出すという段階にはなかった。

10月12日(日)第4回隊長支隊長会議

総合防災訓練(10月4日)振り返り

- ・参加者200名 男性=90名 女性=100名、子ども=10名
- ・タイムキーパーを置いたこともあり進捗管理がスムーズに行われたこと、終了時刻も守られた。
- ・負傷者搬送訓練 担架は重くて使いづらい、車いすはバリアが多いたいへん、リヤカーが良いが現在保有のものはサイドのカバーが無い荷物用のもので、搬送には使えないなどの問題が見つかり(→避難誘導/救出救護班の検討課題とした。)訓練は意味があった。
- ・展示コーナーは多くの方が興味持ち成功
パンフレットは各100部用意したが、一部のものは全部はけ、一部のものは20部ほど余った。
展示コーナーにずっと人がいて見学者への対応を続けていたところは多くの見学者が寄せてパンフレットもはけたが、見学者への対応が途切れたところは見学者の集まりも悪くパンフレットのはけも少なかった。
- ・期待のテーマの一つ、起震車による家具転倒状況/転倒防止手段の効果を見るころみは、消防署の事情によりできなくなり、今後に持ち越された。

10月16日ころ 実行委員および前日準備にあたった人・当日役を持った人に礼状

進行役より、標記の礼状を出した。(メールあるいは書面ポスティング)

以上 進行役(事務局・実行委員)宇津木記

添付資料1. 2014年度 防災訓練 当日 実施要領

午前の場合のタイムテーブルと問題点

開催日: 10/25

◇各隊員

- * 8時 旗出し (～15時まで)
- * 9時30分 参加する人は支隊公園集合

8時は早い

早朝、中止の判断と
連絡時間が取れるか？

◇蜂谷戸防災訓練会場

早い

- * 隊長、本部隊員、**実行委員**は8時30分に会場へ集合、
- * の指示で全員で会場セットアップ
- * ～9時30分 青パト隊は青パト車で広報

◇各支隊

何時？支隊の判断に任せることだが、8時？早すぎる。

- * 活動隊員は早めに集合分担して旗出し調査
- * 一般隊員は9時30分集合 人数確認
- * 避難誘導責任者の先導で蜂谷戸公園へ移動
(XX 支隊からはリヤカーと車いすで避難)
(YY 支隊からは青パト・ランシーバーで本部と連絡を取りながら避難)

十分時間がとれるか？

15min

◇蜂谷戸防災訓練会場

- * 9時45分 各隊集合 旗出し状況と参加人員報告・まとめ
- * **総合司会**……中泉副隊長、10時、司会をスタートする。

- #1 開会宣言……司会
- #2 隊長挨拶……長谷川自主防災隊長
- #3 指導員紹介(町田消防署、町田市役所)……長谷川隊長
- #4 組み分けと実施手順 予定時間の発表……宇津木委員
- #5 訓練開始……

2H
15min

①10:15～10:35 起震車による家具展用実験(デモ) 担当:

- #6 ②10:35～11:35 グループ単位での体験訓練(下線は体験訓練、その他はデモ)

グループA: 起震車

グループB: 消火器放水訓練

グループC: 煙体験

グループD: スタンドパイプ

15分でローテーション

時間に余裕がない。1か所延びると
全体に影響。出しものを減らすか？

人数が多いと難しい。

- #7 ③11:35～11:50 AEDの実演(デモ)……全員

- #8 上記とは別に

①自主防災隊所有機材の展示

②アルファ化米の焚きだし訓練

③相談コーナー 転倒防止器具、煙感知器、感震ブレーカー など

特に女性は11:30を過ぎると昼食
準備で帰る可能性が強い。

- #9 訓練終了 講評 町田消防署 ZZ 氏

- #10 防災隊連絡

- #11 12:00 閉会宣言・解散

- #12 本部隊員・実行委員は後かたづけ

◇各支隊

- * 活動隊員は各支隊へ戻り、午後旗出し状況の最終確認

2014年度 防災訓練 当日 実施要領

午後の場合のタイムテーブル

開催日: 10/18

◇各隊員

- * 10時 旗出し (～15時まで)
- * 13時 参加する人は支隊公園集合

◇蜂谷戸防災訓練会場

- * 隊長、本部隊員、**実行委員**は12時30分に会場へ集合、
- * の指示で全員で会場セットアップ
- * 午前 青パト隊は青パト車で広報

◇各支隊

- * 活動隊員は早めに集合分担して旗出し調査
- * 一般隊員は13時集合 人数確認
- * 避難誘導責任者の先導で蜂谷戸公園へ移動
(XX 支隊からはリヤカーと車いすで避難)
(YY 支隊からは青パト・トランシーバーで本部と連絡を取りながら避難)

30min

◇蜂谷戸防災訓練会場

- * 13時30分 各隊集合 旗出し状況と参加人員報告・まとめ
- * **総司会**……中泉副隊長、13時45分、司会をスタートする。
 - #1 開会宣言……司会
 - #2 隊長挨拶……長谷川自主防災隊長
 - #3 指導員紹介(町田消防署、町田市役所)……長谷川隊長
 - #4 組み分けと実施手順 予定時間の発表……宇津木委員
 - #5 訓練開始……
 - ①14:00～14:20 起震車による家具展用実験(デモ) 担当:
 - #6 ②14:20～15:40 グループ単位での体験訓練(下線は体験訓練、その他はデモ)
 - グループ A: 起震車
 - グループ B: 消火器放水訓練
 - グループ C: 煙体験
 - グループ D: スタンドパイプ
 - 20分でローテーション
 - #7 ③15:40～16:00 AED の実演(デモ)……全員
 - #8 上記とは別に
 - ①自主防災隊所有機材の展示 担当
 - ②アルファ化米の焚きだし訓練 担当: 給食・給水班
 - ③相談コーナー 転倒防止器具、煙感知器、感震ブレーカー など 担当:
 - #9 訓練終了 講評 町田消防署 ZZ 氏
 - #10 防災隊連絡
 - #11 16:10 閉会宣言・解散
 - #12 本部隊員・実行委員は後かたづけ

2H
40min

◇各支隊

- * 活動隊員は各支隊へ戻り、午後旗出し状況の最終確認

総合防災訓練「展示コーナー」の構成

コーナー1:防災隊の保有する機器 パネルは出さず現品展示のみとする。

- ・トランシーバー・担架・車いす・折りたたみ式リヤカー
- ・非常用照明灯・発電機・投光機・レスキューセット・救急セット

コーナー2

パネル2:大地震のとき家具は暴れる！転倒防止・横飛び防止を！(A2縦1枚)
 現品:ためしてガッテンで紹介された冷蔵庫の固定のための部材
 パンプ2:ためしてガッテン情報冷蔵庫を固定するには?(A4・1頁)

後に活動マニュアル
 化してMKK-01と
 して登録

コーナー3

パネル3:大地震のときの火事の怖さ！地震火災から命を守る(A2縦1枚)
 現品:電源遮断装置(感震ブレーカー)
 パンプ3-1:大地震のときに電気がもとで起きる火事—どうするのがよいか(A4・2頁をA3・1頁に印刷)
 パンプ3-2:簡易電源自動遮断装置(“感震ブレーカー”)(A4・2頁をA3・1頁に印刷)

同上MBS-01
 およびMBS-02

コーナー4

パネル4:できることをみなやって防火力確保！(A2縦2枚)
 現品:火災報知器・蓄圧式消火器(各家庭・街頭に配備しているもの)・スタンドパイプ

コーナー5

パネル5:非常時でもトイレはがまんできない！！(A2縦2枚)
 現品:テント付トイレ(テント・便座・消耗品)・消耗品のみのセット

コーナー6

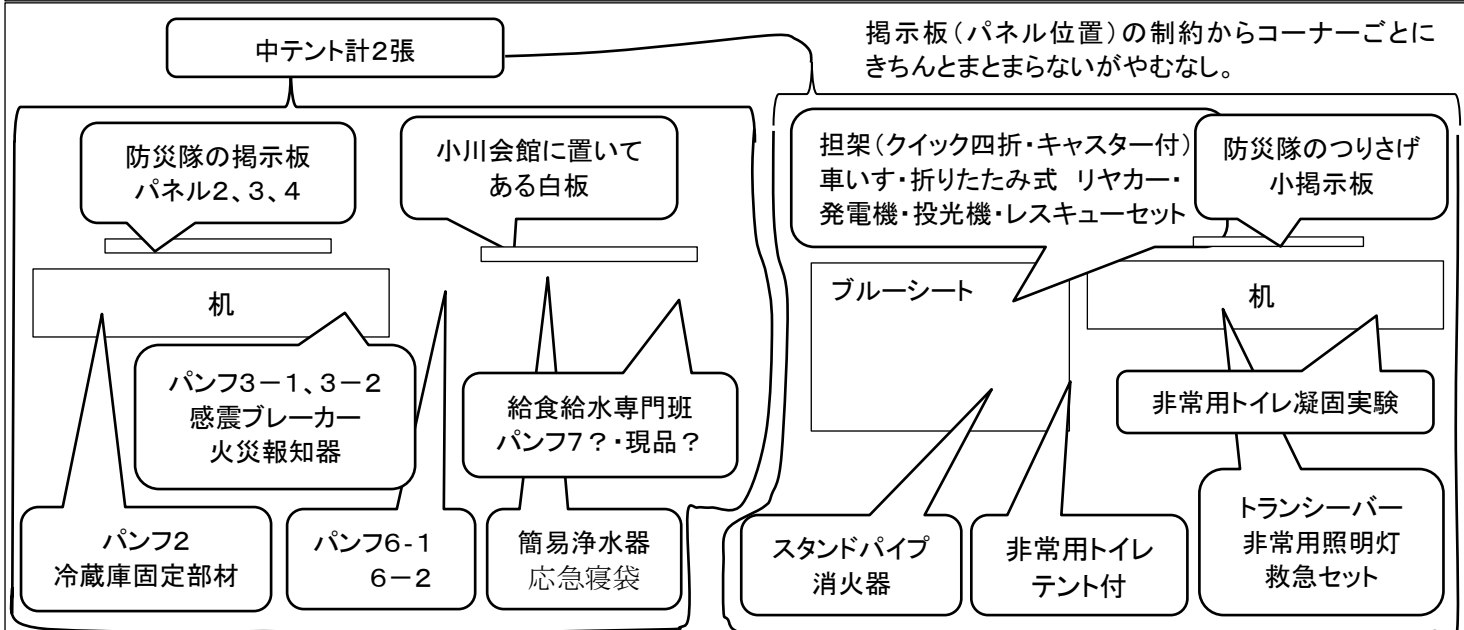
パネル6:非常時の通信事情と安否伝達方法(A2縦1枚)
 パンプ6-1:災害時安否伝達諸サービス
 パンプ6-2:災害用伝言ダイヤル(171)(A4・1頁)

同上
 MJK-01、
 MJK-01および
 MJK-03

コーナー7:

非常食に関するコーナー(給食給水専門班会議に一任)
 実行委員会としてはパネルA2縦1枚貼付スペースと現品展示可能スペースを用意しておく。

同上MHS-01



添付資料3.

2014年度 防災訓練 必要機材および搬送/設営計画						
項目	品目	数量	保管場所/保有者	前日待機所	同左移動担当	当日運び込み/設営担当
車両	起震車	1	町田市役所	—	—	市役所
	消防車	1	消防署	—	—	消防署
	青パト	1	自治会	—	—	勝又
	蜂谷戸公園入口車止柵の鍵	1	町田市	宇津木	宇津木	宇津木
体験コーナー	転倒実験家具	1	町田市役所	—	—	消防署
	煙体験用テント	1	消防署	—	—	消防署
	& 発電機	1	消防署	—	—	消防署
消火訓練	スタンドパイプ	1式	会館横倉庫/蜂谷戸	—	—	* 5
	模擬消火栓	1	消防署	—	—	消防署
	消火器	5	消防署	—	—	消防署
救出・誘導訓練	トランシーバー	4	会館倉庫	既に当日使用者が受け取り済み * 1		
	車いす	2	しもおがわ/かえで倉庫	両支隊が直接持ち出し訓練方々当日蜂谷戸会場まで * 2		
	リヤカー	1	会館横倉庫	蜂谷戸支隊が直接持ち出し訓練方々当日蜂谷戸会場へ * 3		
	AED	1	消防署	—	—	消防署
	ブルーシート	2	蜂谷戸倉庫☆	—	—	* 5
展示物一現品	スタンドパイプ	1式	せんげん/せんげん	小川会館	* 4	* 5
	蓄圧式消火器	1	小川会館前通路	小川会館	* 4	* 5
前日移動	トランシーバー	2	—	当日 * 1のうち青パト使用品を除いて3つを蜂谷戸会場で引き継ぐ。		
	車いす	1	—	当日 * 2の2つを蜂谷戸会場で引き継ぐ。		
	リヤカー	1	—	当日 * 3を蜂谷戸支隊から蜂谷戸会場で引き継ぐ。		
	担架(クイック四折)	1	会館横倉庫/蜂谷戸	—	—	* 5
	担架(キャスター付)	1	会館横倉庫/蜂谷戸	—	—	* 5
	発電機	1	柳谷戸倉庫/柳谷戸	小川会館	* 4	* 5
	投光機	1	柳谷戸倉庫/柳谷戸	小川会館	* 4	* 5
	レスキューセット	1	会館横倉庫	—	—	* 5
	冷蔵庫固定部材展示セット	1	宇津木(制作担当保管場所)	—	* 4	宇津木
	感震ブレイカー展示セット	1	宇津木(制作担当保管場所)	—	—	宇津木
	火災報知器(煙探知)	1	会館倉庫(林)	—	—	* 5
	非常食関係	一式	会館倉庫(林)	—	—	林・給食給水班
	簡易浄水器	1	会館倉庫(林)	—	—	* 5
	応急寝袋	1	会館倉庫(林)	—	—	* 5
	非常用トイレ付	1	会館横倉庫/蜂谷戸	—	—	* 5
	非常用トイレ袋・凝固剤	20	会館倉庫(林)	—	—	* 5
	バケツ(凝固実験用)	1	蜂谷戸倉庫	—	—	* 5
	ペットボトル2L(凝固実験用)	3	宇津木	—	—	宇津木
	照明灯(ランタン)	1	かえで倉庫	小川会館	* 4	* 5
	同上	1	蜂谷戸倉庫	—	—	* 5
パネル展示関係	展示用ボード	1	かえで倉庫	小川会館	* 4	* 5
	//(白板)	1	小川会館	—	—	* 5
	展示用ボード(吊さげ)	2	小川会館	—	—	* 5
	パネル(貼付印刷物)2~6	一式	小川会館(制作担当宇津木)	—	—	宇津木
	パネル7(食事)	一式	小川会館(制作担当林)	—	—	林
配布物	パンフ2~6(5種)	一式	小川会館(制作・印刷担当宇津木)	—	—	宇津木
	パンフ(食事のメニュー)	1	小川会館(制作担当給食班&林)	—	—	林
展示ブース	テント	中2	蜂谷戸倉庫☆	蜂谷戸公園	* 4	—
	テント(給食給水班用)	小1	蜂谷戸倉庫☆	に設営	* 4	—
	机	5	蜂谷戸倉庫☆	—	* 4	—
	椅子	5	蜂谷戸倉庫☆	—	* 4	—
	ブルーシート	3	蜂谷戸倉庫☆	—	—	* 5
蜂谷戸会場で各	支隊の位置を示すのぼり旗	各1	しもおがわ支隊分-しもおがわ倉庫	小川会館	* 4	* 5
本部	他4支隊分-会館横倉庫	—	—	—	—	* 5
	テント	小1	蜂谷戸倉庫☆	蜂谷戸公園	* 4	—
	机	2	蜂谷戸倉庫☆	に設営	* 4	—
	椅子	10	蜂谷戸倉庫☆	—	* 4	—
	自治会旗	1	会館倉庫	—	—	* 5
	救急箱	1	会館倉庫	—	—	* 5
	道具箱	1	会館倉庫	—	—	* 5
	マイクアンプセット	1	小川会館	林	—	* 5
	ハンドマイク	1	会館横倉庫/蜂谷戸	—	—	* 5
	カメラ	1	林	—	林→	山本 敏裕
	ビデオ	1	林	—	林→	山本 敏裕
	ヘルメット	9	会館横倉庫(本部隊員用)☆	—	—	* 5
	腕章	9?	会館横倉庫(本部隊員用)☆	—	—	* 5
	事務用品	1箱	会館倉庫	—	—	* 5

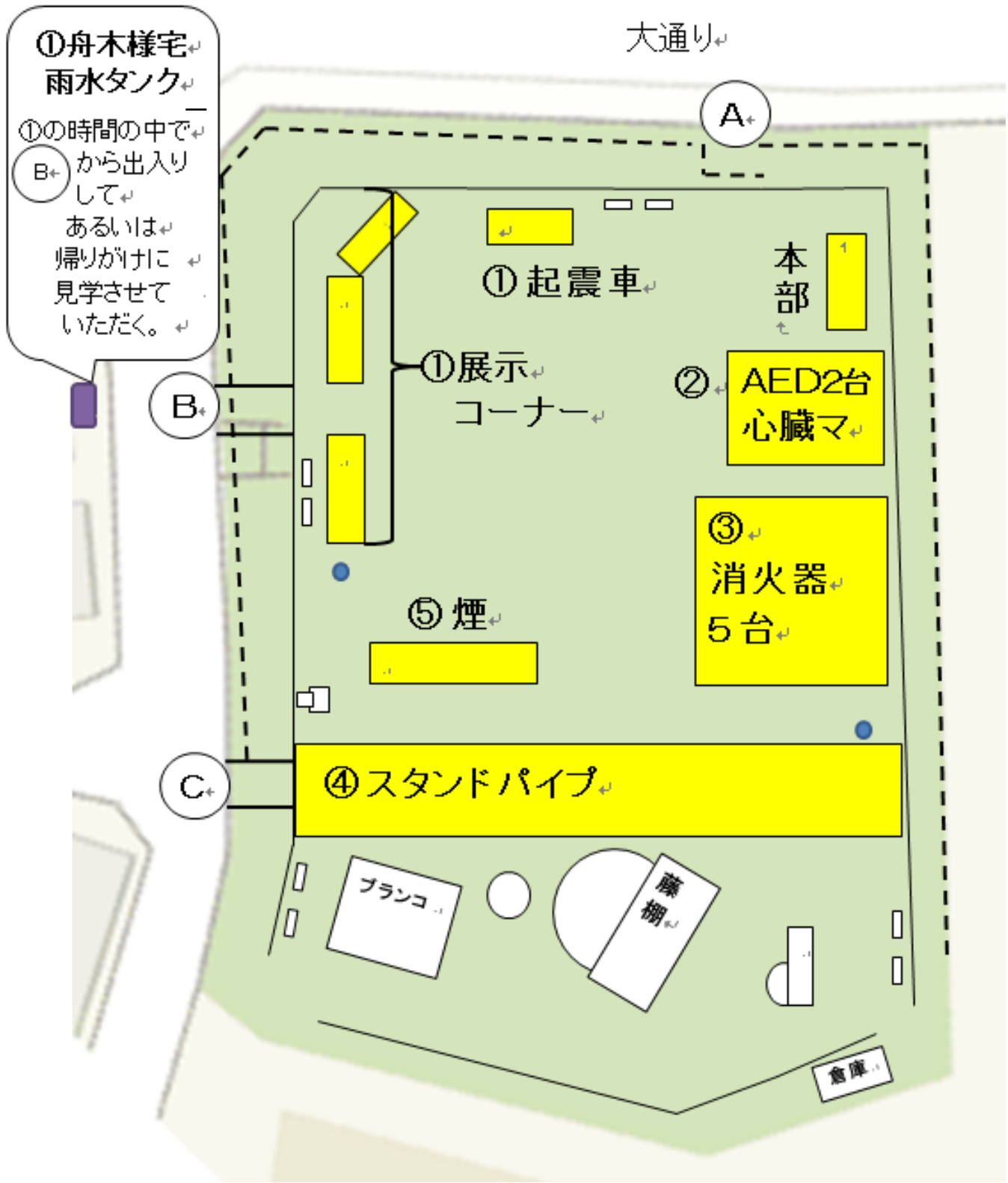
せんげん支隊2台
青パト勝又さん1台
本部大久保さん1台

* 4
長谷川
堤・勝又
中泉
横田・林
宇津木

☆は
自治会本部
(総務部または
行事部)
管理物件

* 5
隊長
本部隊員
本部
堤光雄一責任者)
吉田耕造
吉岡義郎
尾原和人

2014年度総合防災訓練蜂谷戸会場レイアウト

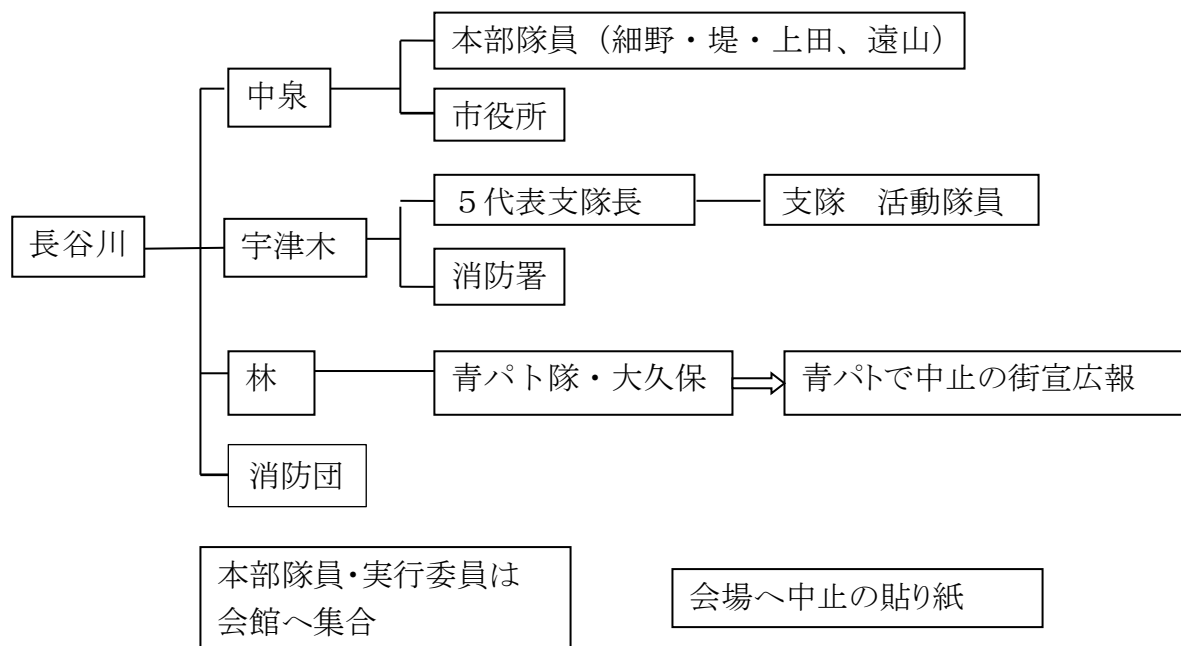


添付資料5. 総合防災訓練 蜂谷戸防災訓練会場 当日担当（会場設営担当は別紙）

役割	責任者	担当者	担当者
全体責任者	長谷川 義剛		
司会	中泉 秋男		
運営事務局	宇津木 幹夫	林 紀史	
タイムキーパー	上田 一美		
参加人数確認	遠山 明子		
本部 受付 緊急対応	細野 武文	大久保 正機	遠山 明子
起震車家具転倒実験担当	中泉 秋男		
起震車コーナー担当	かえで—依田 孝之		
煙体験コーナー担当	柳谷戸—横田 浩		
消火器放水訓練担当	せんげん—石崎 英則		
スタンドパイプ担当	蜂谷戸—大隈誠一		
AEDコーナー担当	下小川—尾関 和子		
展示コーナー責任者	堤 光雄		
①防災隊機材担当	堤 光雄	吉田・吉岡・尾原	林・宇津木
②自助の配備品担当	〃		
③給食・給水担当	坂本 美智子	岩本 光代	兼重 美枝子
避難誘導—リヤカー	(蜂谷戸)		
避難誘導—車いす	(かえで) (しもおがわ)		
避難誘導—交信本部担当	大久保 正機		
避難誘導—交信担当支隊	本木 久嗣 (せんげん支隊)	小西 伸義 (せんげん支隊)	
避難誘導—青パト担当	勝又 昉	齋藤 正敏	
カメラ担当	山本 敏裕		
ビデオ担当	〃		

中止の決定と連絡網

決定：長谷川隊長 7時30分までに決定



2014年度防災訓練準備工程表

項目	内容	担当	7月	8月	9月	8月18日現在
日時の決定	2014年10月4日実施				10月	済
会場手配	鎌谷戸公園(町田市役所)	中泉		8月		済
申請・手配	町田消防署南出張所 消防団	中泉		8月4日		済
起震車予約	町田市役所	横田・中泉・宇津木	7月14日	8月末		済
実施内容打合せ	町田消防署南出張所(諸訓練) 町田市役所(起震車)	宇津木 中泉/宇津木 中泉/宇津木		変更8月4日	9月19日 9月19日	
実行委員会-1	顔合わせ。全体検討	宇津木	7月7日			済
実行委員会-2	日時決定、出し物案作成	宇津木	7月15日			済
隊長支隊長会議	全体計画承認	林		8月10日		済
実行委員会-3	出し物と準備の分担決定 当日運営体制決定	宇津木		8月18日		済
実行委員会-4	(訓練担当者・展示説明担当者も含めた拡大委員会) *および当日運営体制と担当内容確認				9月4日19:00~21:00 小川会館ホールA/B 9月中旬	
実行委員会-5	全般最終確認	宇津木		8月18日		
会場訓練	訓練内容決定			8月18日		
会場外避難訓練	同担当者決定			8月18日		
会場展示	訓練内容決定			8月18日		
会場	同実施支隊決定			8月18日		
	展示物(防災隊保有機器・“自助”勸奨のための展示品)決定			8月18日		*9月4日に最終確認
	展示ブース構想決定			8月18日		*9月4日に最終確認
	パネル構想/作成担当決定			8月18日		
	説明者決定			8月18日		
	手配・購入品決定			8月18日		
	同購入	林・宇津木				*9月4日に現品確認
	パネル・パンフレット作成	宇津木				*9月4日に出来上がり品確認
	レイアウト作成	林・宇津木		8月末		*9月4日に確認
	必要器具・機材手配	別紙				
	当日運用体制	別紙				
	現場の様子確認	宇津木				*9月4日に最終確認 前日
広報	自治会だより一日時の変更	林		8月号		
	自治会だより	林・宇津木			9月14日	
	ホームページ	林・吉田			同上	
	支隊広報紙	林			9月14日	
	掲示板ポスター	林				
	青パト広報 前日・当日午前	勝又・林				
雨天	中止の判断と連絡網	別紙				
予備日	10月26日、13時~	詳細別途				
予算	予算案と隊長承認	事務局		8月末		

展示コーナーの給食給水関係の部分は パネル10、パンフレットの作成も含め 給食給水専門班会議に一任

本工程表には扱いたが、前日準備の前までに市役所公園緑地課から鎌谷戸公園の車止めの鍵のまを借受けておくことが必要。

添付資料7. 2014年度総合防災訓練当日実施細部要領

各支隊代表支隊長殿

総合防災訓練は添付資料「2014年度 総合防災訓練当日実施要領」(従前のものと変わらず)にしたがって行ないませんが、ここには細部のご説明とお願いを記します。

添付「2014年度総合防災訓練蜂谷戸会場レイアウト」をご覧ください。

1. しもおがわ支隊、せんげん支隊および柳谷戸支隊は入口Aから、かえで支隊は入口Bから入り、蜂谷戸支隊も含め、各支隊ごとに①～⑤のコーナーに囲まれたスペースに整列してください。蜂谷戸支隊は個人個人が蜂谷戸公園をめざして来られるので、入口A、B、Cすべての入口から入ることを想定します。ただし当日ポンプ車や模擬消火栓の配置の様子によっては、入口Cは、入口Bにまわっていただくよう、現場で案内いたします。(支隊のみなさんに事前に伝えていただく必要はありません。)各支隊ごとの並ぶ場所は当日案内の人を立てます。
2. 各支隊は参加人員を本部テントの遠山さんに報告してください。
蜂谷戸支隊のみなさんは蜂谷戸公園に集合後人数を数えることになると思いますが、13:30以前に遠山さんに報告できるように、お願いします。
3. 訓練のグループ分けは基本的に各支隊ごとにしますが、支隊の人数に1.5倍以上の差が生じているばあいは、ざっとならします。☆

ここまでを13:30までに終わらせたいと思います。各支隊は数分前に入口に着くようお願いします。

4. #1開会宣言から#4組み分けと実施手順と予定時間の説明、および#5①13:40～14:00起震車による家具転倒実験(デモ)までは全員集合で見聞していただきます。
5. その後の②14:00～15:40グループ単位での体験訓練は 3. で分けたグループごとに行ないます。

かえで支隊は①起震車(人が乗って揺れを体験)・展示コーナー・舟木様宅雨水タンク見学から、蜂谷戸支隊は②AED・心臓マッサージから、柳谷戸支隊は③消火器から、せんげん支隊は④スタンドパイプから、しもおがわ支隊は⑤煙体験から始めていただき、20分ごとに時計回り(番号が大きくなる方向)に次の訓練に移っていただきます。

タイムキーパーの人が20分経過を案内し、各コーナー担当の人が次に移るよう促します。

なお⑤煙体験以外は20分では参加者全員が実体験することはできないと考えていますが、「人のやっているのを見るのも訓練」の考えで、その場を離れずに見学していただくようお願いいたします。

(運営上の混乱を避けるためにも)☆

①の起震車(人が乗って揺れを体験)のときのみ、乗っていない人は展示コーナーおよび舟木様宅雨水タンク見学をしていただきます。ただし、訓練の①②・・・ローテーションがうまく運ぶように協力お願いします。(起震車の方ががら空きになってしまったり、雨水タンクから戻らないなどのことがないように。コーナー担当の人が誘導もしますが。雨水タンクは帰りがけに見ていただくこともできます。)☆

5. は当日#4で案内しますが、参加のみなさんに事前にお伝えする機会があればお伝えください。

(特に☆) また3. の☆もお伝えください。

以上

◇蜂谷戸防災訓練会場午後

長谷川隊長・中泉副隊長・林さん・宇津木は
12:30集合 消防署ほかの早着に備える。

* 本部隊員、実行委員、各コーナー担当者は13時集合

* 13:30分以前に消防署員、消防団員、町田市役所員(?)到着

* 13:30分少し前に各支隊入場

- (1) 消防署員、消防団員、町田市職員(?)名を把握して隊長に報告(#3の紹介のため)・・・細野さん
- (2) 参加人員まとめ:本部テントにて各支隊から報告を受けてTOTAL数をまとめ、中泉副隊長に報告
(#1の開会宣言にてアナウンスするため)……………遠山さん
- (3) 避難誘導訓練に使った機器を展示コーナーに展示:トランシーバーを本部大久保さんから1台、およびせんげん支隊から2台、車いすをしもおがわおよびかえで支隊から各1台、リヤカーを 蜂谷戸支隊から1台受け取って、展示コーナーに展示。(青パトのトランシーバーはそのまま 積んでおく。)……………堤さん・吉田さん・吉岡さん・尾原さん・(宇津木)
- (4) 入場して来た各支隊隊員、および本部隊員整列:
・のぼり旗を立てて各支隊の先頭位置を示し、①～⑤の真ん中のスペースに支隊ごとに3列縦隊に並んでもらう。……各支隊担当は、かえで—依田さん、蜂谷戸支隊—坂本さん、柳谷戸支隊—横田さん、せんげん支隊—天野さん、しもおがわ支隊—吉田さん 本部—長谷川隊長
・人数差が1.5倍以上あったときには、ざっとならず。……………林さん

以上を13:30までに行う!

#1 開会宣言13:30……参加人数の紹介を含める。……………中泉副隊長

* 以降中泉副隊長が司会を行う。

司会発言:「はじめに防災隊長谷川隊長よりご挨拶と本日私たちをご指導いただく町田消防署、(町田市役所?)、および消防団の方々のご紹介をお願いします。」……………中泉副隊長

#2 隊長挨拶……………長谷川隊長

#3 指導員(町田消防署、町田市役所(?))、消防団)紹介(①にもとづく。)……………長谷川隊長

#4 組み分けと実施手順&予定時間の発表、訓練開始のアナウンス……………宇津木

#5 訓練 13:40開始

(5)全員集合して見学一起震車による家具転倒実験(デモ) 13:40～14:00

* 司会発言: (6)に移ることのアナウンス……………中泉副隊長

(6)グループ単位での体験訓練 14:00～15:40

①起震車震動体験☆と展示コーナーおよび舟木様宅雨水タンク見学☆☆

☆責任者:依田さん ☆☆責任者:堤さん 担当:吉田さん
吉岡さん・尾原さん・坂本さん、岩本さん、兼重さん他

②AEDと心臓マッサージ 担当:尾関さん

③消火器 担当:石崎さん

④スタンドパイプ 担当:大隈さん

⑤煙体験 担当:横田さん

各コーナー担当の役割

- ・間を空けずに積極的に体験訓練に参加するように働きかける。
- ・待っている間に人々があちこちに散らないようにする。「人のやるのを見ているのも訓練」)
- ・①の☆起震車は、展示コーナーおよび雨水タンクを掛け持ちするが一か所にかたまらないよう誘導。
- ・20分経ったら、次の訓練にまわるよう仕向ける。雨水タンクは1分前から移動準備。

かえで支隊は①起震車・展示コーナー・雨水タンク見学から、蜂谷戸支隊は②AED・心臓マッサージから、柳谷戸支隊は③消火器から、せんげん支隊は④スタンドパイプから、しもおがわ支隊は⑤煙体験から始めて、時計回り(番号の大きくなる方)に進んで行く。

パネル2

大地震のとき家具は暴れる！

阪神淡路大震災の死者の8割は家屋の倒壊・家具の転倒による窒息・圧迫死です！

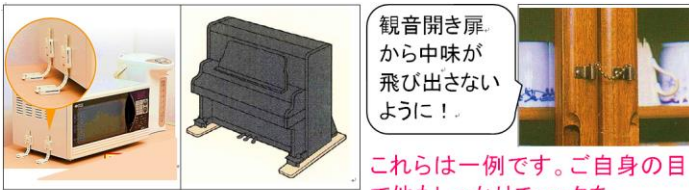
しっかり家具の転倒防止・横飛び防止を！

ホームセンターなどで種々の部材を売っていますが、自前の工夫が効果的なばあいもあります。



すべり防止部材を敷き込む

自前の工夫が効果的な例



観音開き扉から中味が飛び出さないように！

これらは一例です。ご自身の目で他もしっかりチェックを。

- * 近隣ではユニディー相模大野店 (042-702-0511)。
ビバホーム長津田店 (045-988-6311) など。
- * またテレビ・電子レンジ・冷蔵庫など電気製品はメーカーが部材を用意しているものもありますから、販売店に相談するのもよいでしょう。
- * ピアノはピアノ販売店にご相談を。
- * インターネットの通販サイトではさらにたくさん見つかるようです。
- ここでは「NHKためしてガッテン」紹介の「金具＋粘着マット」を使う冷蔵庫固定法のサンプルとパンフレットを用意しました。

パネル3

大地震のときの火事の怖さ

震地震火災から命を守る

首都圏直下地震による東京の被害想定では死者の1割が地震火災によるものです。家財も焼失します。

- * 強い揺れがもとで地震時特有の火事が起きる。
- * 道路の破壊・混乱で消防車も駆けつけられない。
- * 同時多発の火災発生で消防車も足りなくなる。

大地震のときに起こる火事の多くは電気から。どうして起こるのか、どうすればよいのかを知って、日頃備えをすることが大切です。



パンフレット

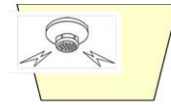
「大地震のときに電気が原因で起きる火事・どうするのがよいか」「簡易電源自動遮断装置(“感震ブレーカー”)」

をご覧ください。(ご希望の方に配布します。)

同時に、もしも火事になりそうになったとき、火事になってしまったときの備えも重要です。

パネル:「できることをみなやって防火力確保！」

もご覧ください。



パネル4

できることをみなやって防火力確保！

街頭消火器

- * 最近5個から34個に増設
- * いざというときだれもが使えるように

- 放火・タバコ失火・飛んでくる火粉による新たな火事を防ぐ。
- 増やしたといえども、出火点に街頭消火器があるとは限らない。
- 「初期」を過ぎた火事は消せない。
- 外に燃え出た火災による隣家延焼を食い止めるのも難しい。

スタンドパイプ

- 「初期」を過ぎてしまった火事でも、逃げ遅れてしまった人がいれば、何とか助けたい。
- 外に燃え出た火災による隣家延焼も何とか食い止めたい。

隊員各家の消火器

- * 最近あらたに350戸の家に消火器が入りました。
- さらに、すべての家に消火器を！

- 建物の内部にあるので、その家の「初期」消火にはとても役立つ。
- 飛んでくる火粉に対して、多数外に持ち出して対処することができる。
- 「初期」を過ぎてしまった火事は消せない。発火後3分が勝負！

火災報知器

- * すべての家に火災警報器！
- * 法律上の義務でもあります。

スタンドパイプ

- 消火栓が必要。がんばって増やしても数には限りがある。

- * まずは各支隊に1台ずつ配備
- * 操作に習熟した隊員の数を増やす。
- あなたもいかがですか？

非常時でもトイレはがまんでできない！！

「30万人以上が強いられた避難生活で、避難者がもっとも困ったのがトイレの問題であった。」
神戸市では被害にあった区域はほぼ100%水洗化されており、水道が断絶したために水洗トイレが使えない状態になった。仮設トイレの備蓄はなく、震災直後は穴を掘ったり、袋に便を貯めるなど涙ぐましい工夫を余儀なくされ、避難所では高齢者がトイレに行けないために水分を控えずに脱水症状を起こすなど、悲惨な状況も生じていたのである。」

今のまま大震災が起こっても大丈夫??

いまは世の中が少し進み、避難所の仮設トイレは行政が考えています。一時避難所のトイレなどは今後自主防災隊により検討が進められるでしょう。だがこれはほんの一部をまかなうに過ぎません。トイレは小川自治会1,500世帯のみなさん全員が毎日毎日……。到底公助共助ではまかない切れず、やはり基本は、「**自助**」するしかありません。そして「いざとなったら庭に穴を掘って」くらいでは済まないことは、少し想像すれば分かります。

大震災の時トイレはどうなるだろうか?

- * 断水して水が流せなくなる。
- * 外部下水管破損・処理施設の機能停止
- * 家屋内・敷地内の下水管の故障
- * 家が壊れてトイレに入れなくなる。

平成24年4月時点で多摩直下地震による断水率 36.9%と想定されています。東京都も水道システムの耐震化を進めてはいますが、防災は最悪に備えて。断水に対しては風呂の残り湯を取っておく、雨水貯留タンクを備えるなども。

水があってもトイレが使えない。「汚水幹線などの耐震化」を市が進めていますが未だ達成度低。いずれにしろ既存トイレが使えなくなることを考えておく必要は消えません。避難所の仮設トイレは長蛇の列！！

非常用トイレの概要紹介

非常用トイレには下にお示しする構成単位を種々の組み合わせで、あるいは単品で売の商品が、種々あります。あなたのお家では何が必要、どんなものが適するでしょうか？

便器便座

- * 元気な人はバケツでも。だが お年寄り は？
- * 合成樹脂製、段ボール製、様々な製品があります。



処理袋・凝固剤・外袋・その他消耗品

処理袋 **凝固剤** **処理袋** **外袋**

先に入れておくもの、後から振りかけるもの、消臭、抗菌機能をうたうものなど種々あります。

複数まとめて一般ごみ（焼却ごみ）として出せます。ただし被災直後はゴミ回収機能のマヒも覚悟する必要があります。匂いがもれないようにできないとつらいでしょう。

保存期間は未開封で、5～10年間くらいです。

* その他ペーパー・ウェットティッシュなど。

* 消耗品はおおまかに一回あたり100円～百数十円というところでしょうか。

プライバシー

- * 簡易テントも売られていますが、* **ポンチョ*** **大きなビニールシート**に眼鼻の穴を開けたものでも代用できるかも知れません。



さあ始めましょう。トイレのこと!

- * ホームセンターなどで商品を見てみましょう。* インターネットが使える人はそれでも調べて。
- * ご自分の「**自助**」がうまく進むために何が必要でしょうか？ 個別の製品の詳しい情報？ 好ましい製品の推奨？ 購入あっせん？ 「**自助**」を前提に、そのための支援を求める声を上げていただくこともよいかも知れません。